

駿河湾の深海魚 (15)

ソコハダカ (その1)

久保田 正 ・ 佐藤 武

ソコハダカ (*Benthosema suborbitale*) は、ハダカイワシ目、ハダカイワシ科魚類のソコハダカ属に含まれ、全世界の温帯、亜熱帯、熱帯海域の中深層に普遍的に分布する1種です。体長約40mmまで成長し、本科魚類中では小型種です(図1)。日本近海に分布するソコハダカ属には他にホクトハダカ (*B. fibulatum*) およびイワハダカ (*B. pterotum*) の3種が知られています。

駿河湾には本種が黒潮系水の湾内への流入と関連して出現し、昼間は400～700m層に生息し夜間には200m以浅へ上昇して日周鉛直移動を繰り返しています。本種は、海面には現れない夜間中層上昇群に含まれます。また夜間に稚魚ネットを用いて100m以深の水層を水平曳で採集を行うと本種とともに中深層性の別の小型種であるイタハダカ属のイタハダカ (*Diogenichthys atlanticus*) も混じって採れることがあります。黒潮水域におけるソコハダカの分布密度は、 $5.2 \text{ g} / \text{m}^3$ そして資源量は2,100万トンと推定されています。本種は中深層域にはかなりの量が生息していると思われます。

ところで、本種の尾柄部には、雄は上部にそして雌は下部にそれぞれ二次性徴の発光腺を有しています。いずれもある体長に達すると現れ(発現)、成長とともに発達し完成します。夜間海面上昇群の種類の発光腺とは形態が異なり、本種独特な特徴を有しています。

沖縄南方海域から得た本種の尾柄発光腺の発現後の発達過程を紹介します。まず、雄では体長約14mm以上で現れ、約20mm以上で完成します。この発光腺には、細片(パッチ)は見られず1個だけです。この1個が成長とともに色、形などは変化して完成後は白色で長楕円形です。脂鰭直後から尾鰭基部まで少し膨らむ状態で伸びています。雄の体長(X)



図1. ソコハダカ
体長: 24.3mm、雌、本州南方海域で採集

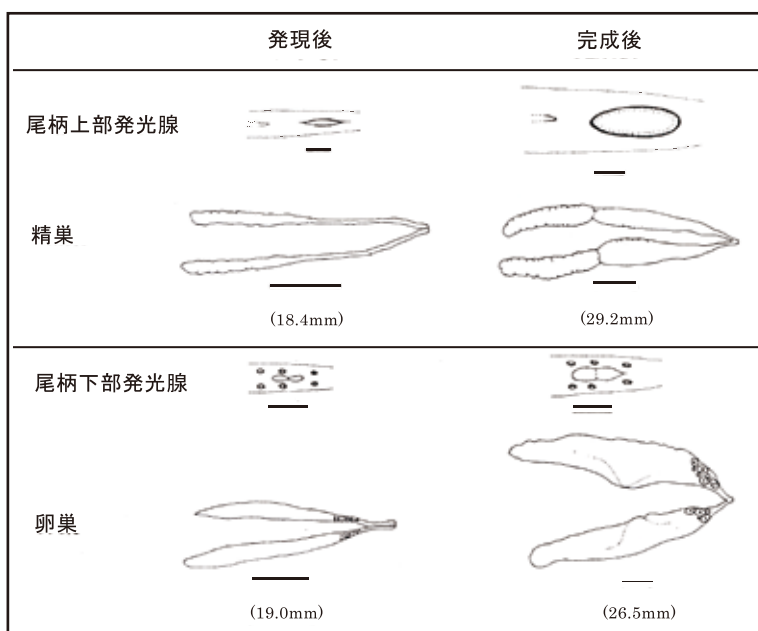


図2. 尾柄上部発光腺と精巢(上)および尾柄下部発光腺と卵巣(下)の発達過程
各々の図中のスケールは1mm、()内の数字は体長

とこの発光腺の長さ(Y)には直線関係がみられ、 $Y=0.139X-1.044$ ($r=0.956$) で表されます。一方、雌では体長約15mm以上で現れ、約20mm以上で完成します。雌にみられる細片(パッチ)は、小さな楕円形の連合した2(または3)個が並んでいて完成すると癒着して1個となります。雌の体長(X)と、この発光腺の長さ(Y)には直線関係がみられ、 $Y=0.075X-0.654$ ($r=0.950$) で表されます。図2は、本種を雌雄別に発光腺の発現後と完成後の2段階に分け、さらにその個体の生殖腺(雄は精巢、雌は卵巣)も併せて対比させて示しています。